

# 令和5年度 こども会議報告会資料

## 第1グループテーマ：相談できる場所や人について



# グループメンバー



浅野美珠

中学2年生

自分と同じ人が少しでも楽になればと思い、応募させていただきました



松本花

中学2年生

自分の住んでいる町のことについて考えるのによい機会だと思ったので、応募させていただきました。



田中彩萌

高校3年生

大学で福祉を学ぶので良い機会だと思い応募させていただきました。



田中慈乃

中学2年生

元々、福祉に興味がありよい機会だと思ったため応募させていただきました。



高橋彩香

小学5年生

小学生6年生に上がる前に色々な経験を積んでから、小学6年生中学生に上がりたいなと思ったので、応募させていただきました。

# このテーマを選んだ理由

- カウンセラーなどを利用しづらいという共通認識があったから。
- グループのメンバー本人や、周りの友人などが学校への行きづらさを感じている。  
→ 学校に行けなくても学習支援が受けられたら…

# 現在の流山市の取り組み

- 心の健康講座
- 心の相談
- 健康相談
- 流山市青少年相談室
- 支援センター

など・・・

# 現状に対する課題

- 相談する場所はあるが、相談しにくい
- あまり知られていない
- 相談アプリの登録率、相談件数が低い  
電話…14件 アプリ…24件 アプリ登録率…7.2%
- 不登校の人が授業を受けづらい

# グループから提案したい具体的な解決策

## 【課題】

不登校の人が授業を受けづらい。

## 【解決策】

- 学校の配信環境を整える。
  - 先生方がオンラインを活用できるように、職員研修等で知識を共有する。
  - 授業の生配信（リモート）を義務化。
- 授業の録画をして、教員が生徒に共有できるようにする。

## 【効果・利益】

- 学校を休んだ人（不登校を含む）が授業に追いつくことができる。
- 教育委員の方が、録画を見ることができ、視察の回数を減らすことができる。

# グループから提案したい具体的な解決策

## 【課題】

相談する場所はあるが、相談しにくい。  
相談アプリの登録率、相談件数が低い。

## 【解決策】

- ・カウンセラーや専門家に授業をしてもらう。
- ・授業の内容→オンライン、多人数で相談しやすく、通話やチャットなどで家からでも相談できるアプリの存在をもっと知ってもらう

## 【効果・利益】

- ・カウンセラーに授業をしてもらうことで相談の敷居を低くすることで相談しやすくする
- ・授業をしてもらうことで、アプリやホットラインの使い方、知名度、登録率が上がる！

# 課題解決に向けて自分たちができること

- ・相談できる場所について調べること
- ・相談できる場所を共有すること



# 私たちからのメッセージ

発表した内容を改めて見直して、グループで話し合ったテーマについて市長や教育長、流山市民の方々に伝えたいメッセージをまとめてください。

ご清聴ありがとうございました